

TEEP

進化型実務家教員
養成プログラム

VOL.14

NEWS LETTER

進化型実務家教員への扉

本校の実務家教員養成プログラムを進めるにあたり、本ニューズレターでは現役の実務家教員がどんな思いで、どんな活動をしているのかを4回にわたって伝えてきました。今回は名古屋産業大学に今年4月から我が国で初めて創設された経営専門職学科の実務家教員二人に登場願いました。以下では、経営専門職学科の立ち上げに中心的役割を果たされてきた二人より、実務家教員の実像と実務家教員活躍のフィールドとして注目される専門職学科の特徴を学びたいと思います。

(文・鵜飼宏成)

実務家教員インタビュー ④

インタビュー

●名古屋市立大学大学院 経済学研究科 教授 鵜飼宏成



名古屋産業大学
現代ビジネス学部
経営専門職学科
学科長
矢野昌彦



名古屋産業大学
現代ビジネス学部
経営専門職学科
准教授
今永典秀

経営専門職学科の独自性・優位性を学ぶ

鵜飼 実務家時代の経験とともに自己紹介をお願いします。「一皮むけた」経験も交えて。

中小企業支援から人材育成の世界へ [矢野] 社会人と学生が語り合う場づくりも [今永]

矢野 私はもともとブラザー工業の研究開発部門で生産管理システムの構築に携わってきました。その後、中小企業診断士として中小企業のサポートをしたいと思い、東海総合研究所(現三菱UFJリサーチ&コンサルティング)に入りました。そこで生産管理のアドバイスなどをする中で環境やイノベーションの

世界に興味を持ち、働きながら名古屋市立大学に通い、日本経済経営専攻の修士を取得。研究と実業を兼ね、現場から商品開発や経営全般の改革・改善を見るようになり、新しいイノベーションを起こしつつ、社会課題や環境の課題を解決できるビジネスモデルをつくりたいと思うようになりました。コンサルタントというのはかなり激務なのですが、顧客の課題解決に必死で取り組み、成果を出すことを大切に日々、創意工夫を積み重ねてきました。

一方、2000年代から世界ではESG(環境・社会・ガバナンス)投資やSDGs(持続可能な開発目標)が注目され始めました。私もそれを意識して、顧客の



大学生が販売を経験

鵜飼 大学に移ってきて戸惑いを感じたことは。また、それをどう乗り越えてきたでしょうか。

今永 以前の大学の話ですが、企業で働いた経験のない教員が、企業に対して自分の研究をアピールするほろ苦い雰囲気のある場所に立ち会ったり、新しいことをやろうとすると理解されず邪魔されたりする経験がありました。幸いにも、私の場合は同じ立場で一緒にやれる仲間や、応援してもらえる教員がいたのが良かった。一人で闘うのは、相当しんどいと思います(今は自分が適応・成長したこともあるかもしれませんが、とても良い環境です)。

矢野 私はずっと非常勤や特任教授を経験し、企業と大学、研究と教育の違いをよく知りながら本学に来たので、まったくといっていいほど戸惑いはありませんでした。今までの経験を生かして自由にやってくれといわれています。愛情教育の文脈でいかに体現するかは、私が追究する課題でもあります。

日本に「良い会社」増やすのが夢 [矢野] 「見えない溝」埋める役割期待 [今永]

鵜飼 最後に、これからの実務家教員に期待することは。

矢野 一言でいうと「日本に良い会社を増やしていきたい」。そのためには起業して良い会社をつくる学生を育てていくことが大切です。一方、企業の側もまだまだ「ブラック」な面が多い。社員や企業、サプライチェーン全体を幸せにする、本当の意味で存在意義のある会社を増やしていきたいというのが私の夢です。

今永 本当にスキルがあって良いことをやっている人が、しがらみがあってつぶされる社会にはしたくない。そこを「学」の力で、企業や一人一人のマインドを変えられたら、世の中も変わっていくと思います。実務家教員は企業と大学の架け橋だといわれますが、そこには大きな溝がある。他の人には見えないかもしれない溝に虹の橋を架け、次の時代をつくるのが実務家教員の役割だと思います。

鵜飼 新学科設立の背景やそこで求められる教員像について教わり、TEEPが目指す方向性にも自信が持てました。本日はありがとうございました。

矢野昌彦

プロフィール

早稲田大学理工学部工業経営学科卒、大阪大学工学研究科博士課程後期修了、博士(工学)。環境情報科学査読委員、商品開発管理学会理事を歴任。担当科目は、事業価値創造実習、事業共創、社会創造実習、デジタルデータ活用、イノベーション関連科目など。

今永典秀

プロフィール

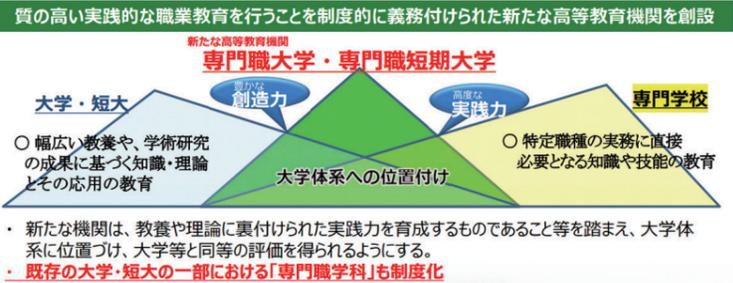
名古屋大学経済学部卒、グロービス経営大学院大学経営研究科経営学修士(専門職)、博士(工学)。グローバルビジネス学会理事。大手信託銀行法人営業、トヨタグループ経営企画部、岐阜大学地域協学センター特任助教。市民活動団体NAGOYA×FOREVER代表など。担当科目は、キャリアデザイン1、共創・フューチャーセンター、インターンシップ関連科目など。

TEEP 実施委員会では、コンソーシアムのさまざまな情報発信についても積極的にを行っています。詳しくは随時以下のWebサイトにて案内してまいりますので、ぜひご覧ください。4月より進化型実務家教員養成プログラム「基本コース」がスタート。5月には「専門コース」の説明・相談会を計画しています。

TEEP実施委員会事務局(名古屋市立大学 教務企画室内) <https://teep-consortium.jp/>



専門職大学・専門職短期大学とは？



(出典) 文部科学省HP「専門職大学設置構想のポイント」(平成31年1月)より一部抜粋

利益に直結するコンサルティングだけではなく、社会に役立つために、産学連携の研究会や協会を作るなどしました。当時はノーベル平和賞を取ろうと思ったほどの思い入れでした(笑)。そうした大きな枠組みを考えたのが、一つ突き抜けたなと思える経験です。今回、創設に関わることになった経営専門職学科でも、社会を変革できるような起業家や経営者、あるいは経営者の右腕となるような人材を育てたいと思っています。

今永 私は名古屋大学を卒業する時には、当時は特別やりたいということはなく、大学の中で尊敬できる人のいた住友信託銀行に入社しました。しかし、最初の2年間は東京、その後2年間は名古屋で、また2年間東京へという転勤が続き、いずれは家族のいる名古屋に落ち着きたいという思いから転職を考えるようになりました。

大学の事務職も受けたのですが、「オーバースペック」だと言われて不採用に。「いやいや、自分は地元に戻りたいだけだからいいのに(笑)」などと、すれ違いもある中で、ご縁があり東和不動産に入りました。

そこはいい意味で余裕のある働き方ができる会社で、逆に物足らなくなり、会社とは別の活動をする



講師を招いたまちづくり勉強会

ようになりました。30代ぐらいになると、自分の思いを実現できるコミュニティをつくりたいですね。学生時代からの仲間などを集めて、社会人と学生が座談会で本音が語れる場をつくり始めました。同時に経営の大学院に通うなどしていると、大学から声が掛かり、岐阜大学を経て今の大学に着任しました。こうした転職や市民活動経験が、自分を大きくしてくれたと思っています。

「経営専門職」として事業の価値創造を担う人材を輩出

鵜飼 二人が立ち上げられようとしている経営専門職学科の意義や狙いは。

今永 名古屋産業大学はもともと建学の精神に「職業教育をとおして社会で活躍できる人材の育成」を掲げています。これが専門職大学の枠組みに適合し、「これをやるのはうちしかない」という経営判断ができたのがすべてです。経営者がマインドを示し、共感するメンバーが集められました。また、現代ビジネス学科には、実践力を鍛えるために実務家教員が配置され、3カ月間という長期インターンシップの受講が可能な枠組みがあり、この延長線上に経営専門職学科が置かれました。

特に中部圏では持続的なイノベーションの創造や新しいビジネスモデルの創出が不可欠となっています。そうした社会の変化に対応するため「デジタルデータの知識技能を駆使し、事業の実践を通じて価値創造に貢献する専門職人材を養成する」ことが本学科の狙いです。

鵜飼 通常の大学・学部との本質的な違いは。

今永 産業界と協働し、社会が求める職業能力に関する高度な実践力の養成に特化する点が特徴です。具体的には、「職業専門教育の職業専門科目・実習・臨地実務実習・総合学習により、デジタルデータ分析の知識・技能を、産業界と連携し、実務家教員、実践者が教授し、事業の価値創造に向けた高度な専



大学生が商談会で商品プロモーションのプレゼンテーション

門性を身につけることができる点」で明確な違いがあります。すなわち、養成する人材は、現代から未来の社会の状況・産業界のニーズを踏まえた新時代に向け、事業の価値創造などを即戦力で担うことのできる「企業経営の知識とデジタルデータに関する高度な実践力と社会の変化に対応する豊かな創造性を備える専門職」です。即戦力人材を養成するため本学科では、科目数で約3分の1を占める「実習」と理論学習の体系的プログラムを構築し、実現するための教員組織(専任教員の4割以上が実務経験を有する教員)と、産業界との連携が整備されています。

起業を目指す学生に「投資」必要 学生の「本音」を知っていること

鵜飼 実務家教員だからこそその強みは。

矢野 本学は学術型と実務家型の融和が比較できていました。それは他大学と比べて学術研究よりも学生の「愛情教育」※や職業教育に重点が置かれてきたからです。私も学術と実務のハイブリッド型人材といえるので、本学科を通してそうした人材を育成していきたいと思っています。

現在、日本の中小企業の課題の一つは後継者がいないこと。技術やネットワークを若い人に引き

継げるよう、ITを活用した新しいビジネスモデルをつくらなければなりません。これまで私はコンサルタントとしてそれをやってきましたが、教育システムから確立していくべきでしょう。

また、ベンチャーキャピタルに関わることも多かったのですが、ゼロからイチをつくるような、在学中に起業するようなやる気のある若者をどんどん育てたい。「学生への

投資」が不可欠だと考えています。

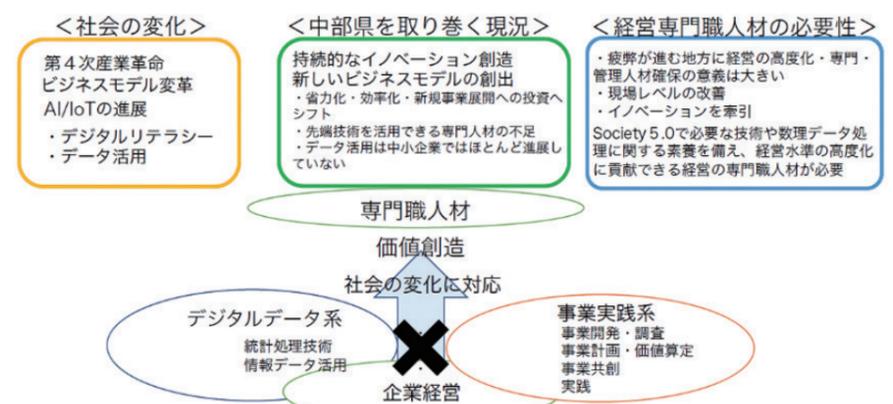
※「慈母の如き愛情をもって職業教育に専念する。」の意

今永 私の場合、「大学には大学のルールがある」ことから、研究を開始しました。やってみると面白くなり、論文が通ると楽しくなって知見もネットワークも広がりました。

一方、実務家の強みは社会や世の中を知っていること。企業のロジックやNPOの行動パターンが理解できます。私の場合は学生と一緒に活動を続けてきたので、学生の本音を知っていることも強みです。

変な言い方に聞こえるかもしれませんが、大学生に教えるのに社会人としての職位レベルはそんなに高くなくてもいい。企業の部長レベルでなくても、私のような比較的若い年齢でも学生の立場に立って考えやすく、親しまれるのかもしれない。

名古屋産業大学 経営専門職学科



建学の精神 職業教育を通して社会で活躍できる人材を養成する

名古屋産業大学が育成する「経営専門職人材」

1) デジタルデータの知識技能を備えた高度な実践力

2) 事業に関する高度な知識と豊かな創造力を有し、事業の価値創造に貢献できる人材

養成する人材像

デジタルデータの知識技能を駆使し、企業経営や社会の変化に対応した

事業の実践を通じて、価値創造に貢献する専門職人材を養成する